

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970200174
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	山梨ケアセンターそよ風
所在地	〒 405-0018 山梨県山梨市上神内川15-5 電話番号 0553-21-8071

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年12月19日	評価確定日	平成20年2月8日

## 【情報提供票より】平成19年12月6日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15	人
職員数	14人	常勤	13人	非常勤 1人 常勤換算 12.8人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 200,000 ) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 1300 円			

## (4) 利用者の概要 平成19年12月6日 現在

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	73 歳	最高	100 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋元医院、山梨厚生病院、岡歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年12月27日

山梨市駅より徒歩数分の場所にあり、周辺はアパートや住宅がある。鉄骨二階建てのユニットで、廊下を隔ててショートステイ、デイサービスを行うケアセンターを併設しているホームである。介護度が高い利用者も多いが職員は穏やかで丁寧な支援を行っている。一階・二階のユニット、併設のケアセンターとの利用者や職員の交流やケアセンターでのリハビリも積極的に行われている。管理者は、運営推進会議を通じて地域へホームを認識してもらえよう努力をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回①外出支援②書類の整備③身体拘束が主な改善点であったが、全職員で検討を行い、①については可能な限り毎日散歩や買い物に出かけている。②についてはすべての書類が分かり易く整備されている。③については繋ぎ服の使用はしていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価に対しては、全職員で検討し意見を反映している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者家族・民生委員・区長・市福祉職員・施設職員の出席で二ヶ月に一度実施されている(包括支援センターからは二回に一回の出席)ホームの事業報告・事業計画・外部評価結果の報告が議題として取り上げられている。管理者は、この会議を通して地域との繋がりが出来るよう努力しているが、今のところ会議からあまり意見が得られない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置している他、家族来訪時に意見や苦情を伺うようにしている。家族から気軽に苦情など直接職員に伝える関係作りが出来る。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のいきいきサロンや敬老会への参加の要望をしても地域から受け入れてもらっていない。災害時の近隣住民への協力依頼なども含めて運営推進会議などを通して地域との連携を図る努力をしている。

## 2. 調査報告書

事業所名：山梨ケアセンターそよ風

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケアセンターの運営方針を理念としている。ホームとしては一階・二階別々に「和やかに始まり 和やかに終る」「おだやかに自分らしく」という主旨のものを本年度のスローガンとしているが、ホーム独自の理念は掲げていない。	○	地域の一員としてホームでどう暮らしていくかということを分かりやすい言葉で理念として定めて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎月のスタッフ会議で運営方針を伝えているが、全職員が理念として共有するには至っていない。	○	理念として分かりやすい言葉で目に付きやすい場所に掲示するなどの工夫が望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しホームの季節のイベントに新聞折込のチラシで地域の方の参加を呼びかけているが、住民の参加は少ない。地区の「いきいきサロン」や敬老会への参加の要望をしているが、地区からは参加の受け入れはない。	○	ホームから地域の付き合いをいろいろ試みているが、地域のホームに対する理解を得られるに至っていない。さらにホームに関する啓発に努力されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組んだ。前回の改善点について全職員で検討し、買い物に毎日出かける。書類の整備・身体拘束(繋ぎ服)の廃止など努力された。	○	改善点と改善結果は運営推進会議で議題に取り上げ議事録として記されているが、改善点について独自に改善シートとして記録されることが望ましい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・民生委員・市の介護担当職員・区長・施設職員の出席で二ヶ月に一度開催されている。(包括支援センターは一回おきに出席) 会議では、ホームの事業報告・事業計画・外部評価の報告などを行っているが委員からの意見はあまり出ない。会議の内容は、議事録として残されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の福祉課の介護担当職員が参加している。ホームから利用者の入退状況の報告に市に出向いてホームの様子を細かく伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム独自のおたよりは無いが、施設便り「そよ風」にグループホームの様子を掲載している。担当職員は一人ひとりの利用者の様子を毎月手紙として写真と共に送っている。預かり金については家族来訪時に報告し確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はあるが主に家族訪問時に意見や要望を伺うようにしている。家族からは気軽に要望や意見が得られる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動については、利用者・家族に報告はしていない。一階・二階のユニットの職員・ケアセンターの職員とは、常に交流があるので職員の異動について利用者の混乱はない。	○	職員異動について利用者・家族に報告されたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者は一ヶ月間担当職員について研修を行う。施設内研修は、ケアセンターと合同で行い、ノロウイルス・インフルエンザ等医療関係については、センターの看護師が講習を行っている。外部研修としてGH研修、管理者・リーダー・実践者研修の他、希望の研修を受講し、ホームから費用の助成もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修として他ホームから受け入れは行っているが、地域の他の二ヶ所の事業所との交流は行っていない。	○	地域の事業所との情報交換やネットワーク作りに取り組んでもらいたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者があればホーム職員が2～3回自宅を訪問し、顔なじみの関係作りをし家族・本人がホームの見学を行い、納得した上でサービスを利用している。インターネットで情報を得て見学する方法もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護度の高い利用者が多いため職員と一緒に家事をすることは難しいが昔話を聞くことで生活の知恵やマナーを教わることが多い。またホームのイベントやボランティアによる歌や朗読を一緒に楽しんでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリングで利用者一人ひとりの意向を把握している。日々の生活でそれぞれの希望を伺い毎朝の申し送りにより、買い物・リハビリ・花の世話など利用者本位の計画を立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に個々のアセスメントを細かく行いそれに基づいて介護計画を立てている。短期、長期の介護目標を立て、月一回のカンファレンスで検討を行っている。入居者の状況に変化がないときはカンファレンスは行わないこともある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の入居時に応じて三ヶ月ごとの見直しを行っている。毎月のモニタリングにより状況に変化があったときは、その都度カンファレンスを行い見直しを行い、家族の同意を得て署名捺印をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のケアセンターでデイサービス・ショートステイ・リハビリのサービスを提供しているため、ホームとして多機能のサービスは行っていない。利用者個々の希望外出の一对一のサービスも行っていない。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週土曜日に協力医院によって往診をしてもらっており半数の利用者が受診している。かかりつけ医での受診は家族同行でホーム職員が対応している。定期検診は、費用の問題もあり行っていない。認知症については日下部病院で相談をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人から延命治療を希望しないなど意思の確認は行うと同時に契約時家族に医療措置が必要となったときは、医療機関へ移ってもらうことを口頭で伝えている。ホームに看護師がいないので今後も終末期ケアを行う予定はない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの生活歴や性格を踏まえた上での言葉かけやさりげない介助を行い、その人の誇りを傷つけない支援がされている。記録の保管もプライバシーに配慮されている。一人の職員が利用者を「おばあちゃん」と呼びかけていた。	○	利用者への呼びかけは、姓や名前呼びかけてもらいたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合った楽しみや生きがいを見つけ希望に沿った支援がしたいという職員の思いはあるが、人手不足で職員の思い通りの支援が出来ない状況である。最近ゲートボールの道具が手に入り室内でプレーをする準備をしている。	○	利用者の介護度に合った支援を行うため人材の確保と工夫を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、職員が行い利用者は食卓でじっと待っており、空腹を訴える人がいた。職員は介助をしながら同じ食卓で同じ食事をしていたが弁当持参のときもある。後片付けは利用者も手伝っていた。	○	食事を待つ間、気を紛らわせる工夫や食事準備も利用者が参加できる工夫が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全利用者が入浴介助が必要なため昼食後を入浴時間としている。(毎日入浴可能)失禁時はシャワー浴をしている。時々ディサービスの大きなお風呂での入浴を楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物たたみ・食器拭き・散歩・買い物など毎日の生活の中で、その人に合った役割や楽しみごとを見出すように支援している。またホーム主催のイベントなども利用者は楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況に応じて交代で毎日の散歩や買い物に出かける他、月に一～二回ドライブで昼食に出かける。ディサービスのイベントへの参加も行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関(自動ドア)や居室の施錠はないが一階二階のリビングの入口ドアには利用者の安全ということを重視して錠がかけてある。	○	リビング入口のドアにドアベルをつけるなどの工夫をしたうえで錠をかけないほうが望ましい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	三ヶ月に一度消防署立会いで夜間想定の実地訓練を行っている。自治会へ呼びかけ地域の協力のもとでの訓練を実施したいと運営推進会議に提起している。災害マニュアル連絡網の文書も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼夜は併設施設で立てた献立によって調理されている。栄養バランスも管理栄養士によってチェックを行っている。朝は、ホームが用意した食材で調理している。食事水分の摂取量はバイタルチェック表に記入されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花が飾られ明るい雰囲気である。廊下・トイレ・風呂・リビングは広々としたフローリングで使いやすい空間になっている。リビングや廊下にはクリスマスの飾りや利用者の習字・写真が飾っており季節感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリングになっており造りつけのクローゼットとたんすがあり機能的に出来ている。ベット・カーテン・テレビなどは利用者の好みのものが使われている。		